

東海市社会資本整備総合交付金評価委員会 議事録

日 時	令和8年（2026年）2月12日（木） 午後2時00分から午後4時10分まで		
場 所	東海市役所（603会議室）		
委 員 (敬称略) □出席 ■欠席	■大西 彰委員	□久野 光洋委員	□谷口 庄一委員
	□江川 祐之委員	□秋葉 みどり委員	□松木 志保委員
事 務 局 出 席 者	<ul style="list-style-type: none"> ・都市建設部長 若狭 明朗 ・都市計画課長 竹内 千明 ・都市計画課主幹 早川 昌毅 ・都市計画課統括主任 佐藤 友浩 ・都市計画課主任 富田 寛志 ・都市計画課技師 早川 裕一朗 ・花と緑の推進課主幹 初山 剛次 ・花と緑の推進課技師 桐山 慶紀 ・中央コンサルタンツ株式会社 角見、川畑 		
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 部長挨拶 2 委員自己紹介 3 事務局職員自己紹介 4 委員長選出 5 委員長挨拶 6 職務代理人指名 7 議事事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 第1号議案「文化交流地区都市再生整備計画について」（中間評価） 【資料①】 (2) 第2号議案「保健医療福祉拠点周辺地区都市再生整備計画について」 （フォローアップ）【資料②】 (3) 第3号議案「安心・安全で賑わいのある快適都市の充実について」 （フォローアップ）【資料③】 (4) 第4号議案「東海市における緑あふれる快適都市づくり（防災・安全）について」（中間評価）【資料④】 8 その他 		
公開・非公開	公開		
傍聴者数	0名		
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 部長挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・都市建設部長から挨拶があったもの。 		

	<p>2 委員自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員から自己紹介があったもの。 <p>3 事務局職員自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局職員から自己紹介があったもの。 <p>4 委員長選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷口委員が指名されたもの。 <p>5 委員長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷口委員長から挨拶があったもの。 <p>6 職務代理者指名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久野委員が指名されたもの。 <p>7 議事事項</p> <p>(1) 第1号議案「文化交流地区都市再生整備計画について」(中間評価)</p> <p>【資料①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画課から説明し、下記の質疑応答を行ったもの。 ・(秋葉委員) 創造の杜交流館の事業について、市民に創造の杜交流館の存在が十分に認識されておらず、利用促進が図れていないように感じる。市民の方からもこのような声を聞くことが多々ある。この課題に対して考えている対策はあるか。 <p>⇒ (事務局) 創造の杜交流館が開設してから、映画上映等の実施により、一定程度の周知をすることはできたと思われるが、市全体への周知は難しいと感じている。現在も広報紙やホームページを活用する等、認知されていない人への周知を行っている。芸術劇場の利用者が増えているのは、作って終わりではなく、作ったあとの活用方法をしっかり考えたからであるため、創造の杜交流館も活用についてしっかり考えていく必要がある。また、指定管理者制度を導入しているため、民間の力も借りながら利用と認知が進むように取り組んでいきたい。</p> <p>⇒ (秋葉委員) 大きな通りから1本入った場所にあるため、どこにあるか分かりづらい。近くを通ったときに場所が分かるような工夫をすると良いのではないか。</p> <p>⇒ (事務局) 尾張横須賀駅西側の駅前広場の整備を進めている中で、駅からの経路が分かりづらいとの声もあるため、案内看板の設置や歩行空間の整備等、市民が利用しやすくなる工夫をしていきたいと考えている。</p>
--	--

・(江川委員) アンケートの結果を用いた指標が設定されているが、このアンケートはどのような形式で実施しているのか。配布数や回答数、回収方法、東海市以外の人も対象としているか教えてほしい。

⇒(事務局) アンケートの項目は、第6次総合計画で使っていた指標であるため、そのアンケートの項目と同様の条件で実施している。今回のアンケートは、3,500人に配布し、1,675件の回答をいただいた。回収方法は紙媒体であり、16歳以上85歳未満の市内在住者を対象として実施している。アンケートの送付先は無作為抽出としている。

⇒(谷口委員長) アンケートは、その時に応じて設問の聞き方を変える検討をする必要があるが、指標に設定している以上変えることができないため、難しい部分でもあると思われる。

・(松木委員) 地区内の人口密度の指標は、目標達成見込みなしの記載があるが、目標達成の見込みがない場合は、何か別の指標を立てるのか。

⇒(事務局) 本地区のみならず、市全体で人口減少の傾向にあることから、現時点では目標値の達成見込みなしとしている。ただし、所見のとおり、今後、事業が促進されることで地区内人口が増加に転じる可能性はあると考えている。今回は中間評価であることも踏まえ、現時点では別の指標を設定する必要はないと判断しているが、事後評価時に目標達成の見込みがないと判断した場合は、その他指標を設定し、効果発現を確認することも考えている。

・(谷口委員長) まちづくりの課題と目標設定において、駅を中心としたにぎわいづくりといった場合に、駅の利用者と近隣の商業施設の利用者の数は合致しないと思われる。また、尾張横須賀駅周辺の歴史的な資源は魅力的であるが、実際はマンション等の立地も増えている。1つの捉え方として、土地区画整理事業は道路整備等の自動車を利用する人のための事業であるため、自動車に過度に頼らないという目標との矛盾が生じている。まちづくりの課題を解決するためには、太田川駅周辺のにぎわいについて、しっかり検討する必要があるが評価としては問題ないとする。

<異議なし>

(2) 第2号議案「保健医療福祉拠点周辺地区都市再生整備計画について」

(フォローアップ) 【資料②】

・都市計画課から説明し、下記の質疑応答を行ったもの。

・(秋葉委員) 公立西知多総合病院の整備と新駅である加木屋中ノ池駅の整備により、病院へのアクセス性が向上したと記載がある。加木屋中ノ池駅の周辺は便利になったが、病院へ行く人が加木屋中ノ池駅をどの程度利用している

	<p>か把握しているのか。病院勤務の職員は電車を使っていると耳にするが、患者が使っている声はあまり聞かない。</p> <p>⇒（事務局）職員から加木屋中ノ池駅が開業してからは通勤が便利になったという話を聞いているが、患者からの声は聞いたことがない。以前運行していた太田川駅や南加木屋駅からのシャトルバスが廃止されたため、鉄道を利用している人が増加していると考えられる。利便性は高まっていると思うため、今後その効果を検証していく必要があると考えている。駅利用者数の目標を1日あたり2,000人と設定しているため、今後も地区全体として利便性の向上を目指したい。</p> <p>⇒（秋葉委員）駅利用者数の目標の1日あたり2,000人に対して、現状の駅利用者数はどれくらいなのか。</p> <p>⇒（事務局）令和6年度の駅利用者数は1日あたり927人であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（江川委員）地区内人口の指標の所見の中に、まちの基盤整備に合わせた住環境の整備を進めるという内容の記載があるが、通学路も合わせて整備を進めてほしい。 ・（松木委員）健康診断で公立西知多総合病院を訪れた際、加木屋中ノ池駅からのアクセス通路を通ったが、整備されていて利用しやすいと感じた。一方で、病気を患った際には駅からの距離や階段等が大変なのではないかと感じた。 <p>⇒（事務局）病院の正面玄関前にらんらんバスの停留所があるため、加木屋中ノ池駅から歩くのが大変な場合は、バスの方が利便性は高いと考える。しかしながら、電車の方が本数は多いため、状況に応じて公共交通サービスを使い分けていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（久野委員）公立西知多総合病院付近の道路が整備されたことで、朝の渋滞が緩和されたことはありがたい。2ページ目の改善策の2つ目の「誰もが利用しやすい生活サービス施設の維持・充実」の今後の課題に「様々な世代の住民が利用可能な生活サービス施設の維持・充実を図る必要がある」と記載があるが、具体的な計画があれば教えてほしい。 <p>⇒（事務局）現在、この地区の周辺には商業施設が少ないため、土地区画整理事業の地区内に商業系の店舗が立地する予定である。</p> <p>⇒（秋葉委員）開業する時期はどのあたりか。</p> <p>⇒（事務局）土地区画整理事業の所管課からは令和9年に土地の引き渡しを行い、その後、建築工事に着手すると聞いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（谷口委員長）医職住が整った新市街地というコンセプトでまちづくりを進めているのであれば、病院従事者の利便性をもっと高めるべきだと考える。
--	--

また、土地区画整理事業の実施により名古屋へ通勤する人を対象に利便性が高まるといった側面もある。リハビリ施設や高齢者施設の立地を誘導するとコンセプトと合った魅力ある地区になるのではないかと考える。本計画に位置づけられている事業については特に問題ない。

<異議なし>

(3) 第3号議案「安心・安全で賑わいのある快適都市の充実について」

(フォローアップ)【資料③】

- ・都市計画課より報告説明し、下記の質疑応答を行ったもの。
- ・(秋葉委員) 2ページ目の今後のまちづくりの方策の進捗状況の中に、「生活サービス施設の誘導を図った」と記載があるが、生活サービス施設の誘導とは具体的にどの施設を誘導したのか。
⇒(事務局) 太田川駅西土地区画整理事業区域内でのカインズホームやフォレストモールの誘致がそれにあたる。
- ・(江川委員) 指標2の鉄道主要駅における乗降客数は、どの駅を対象としているのか。
⇒(事務局) 市内の9つの駅全てである。
- ・(松木委員) 「シェルター」や「ポケットパーク」の用語の意味を教えてください。
⇒(事務局) シェルターは、屋根、上屋を指す用語である。
ポケットパークは、公園とは定義が違うものの、小さな公園のような市民等の憩いの場で歩いている人が途中で休憩できるような場所を指す。
- ・(久野委員) 細かい部分ではあるが、1ページ目において、タイトルは「安心・安全で」と記載がある一方で、まちづくりの目標の中には「安全・安心で」と記載がある。この言葉の順番は統一した方が良いのではないかと。
⇒(事務局) タイトルと目標は、計画書を作成した際に決めたものであるため、今回のタイミングでの変更はできないが、今後は統一するように努める。
- ・(久野委員) 2ページ目のフォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策について、国道155号の4車線化の整備に合わせた取付道路の整備を実施するのはなぜか。具体的にどの場所で整備を考えているのか。
⇒(事務局) 国道155号の4車線化は、横須賀インターから東海警察署の区間、横須賀高校の北側の区間、大府市との市境の区間が整備できていない区間である。今後、4車線化を進めていくが、中央分離帯ができることにより、

交差点が分断される可能性があるため、取付道路を整備する必要があると考える。

⇒（久野委員）4車線化にあたっては、交差点に信号を設置した方が通行しやすくなり、土地を買収して新しい裏道をつくらなくてもよいのではないかと。実施にあたっての課題・その他特記事項欄の「取付道路の整備」を「裏道対策」へ表現の修正をお願いします。

・（谷口委員長）東海市は駅が多く便利であるが、駅利用者数が1日あたり5万人と少なく、上手く活用できていないように感じる。市外からの来訪者が多いのか、市内移動が多いのが分析し、課題を出せると良い。太田川駅以外は電車の本数が少ないうえに、滞留できる空間が少ないため、もったいないと感じる。本計画の事業の成果としては整理できているため、問題ないが、整備が進んでいることを活かし、今後はそのような分析や検討も行っていくと良いのではないかと考える。

・（秋葉委員）3ページ目に記載のアンケート結果のうち、歩道の整備の満足度が低い結果となっている。都市計画道路等の大きい道路の整備は進んでいる一方で、生活道路等で歩きやすい歩道が増えると良いと感じる。アンケートの結果も踏まえ、今後、スピード感や事業の優先順位も含めどのように進めていくことを考えているか。

⇒（事務局）アンケートでは、「歩道の設置が十分である」という項目に対して満足度を調査している。生活道路等では、構造物等で車道と分離していないことや歩道が設置されていないことから、市民が住宅近くで歩いている道路をイメージしているため、低い結果になったと考える。大きな道路の整備が進んでいる一方で、一部の生活道路の整備が進んでいない現状にあるため、優先順位、必要性を検討しながら進められるように担当課へ伝える。また、歩道だけでなく、通学路の危険箇所も含めて整備が進むよう予算を確保できるよう調整したい。ユニット規制や車両の走行速度を時速30kmに制限しているゾーンなど、歩道が設置されていなくても安全に通行できるような対策を実施していても、歩道の設置は十分であるかという聞き方だと、どうしても満足度が低く評価されてしまうため、アンケートの内容も検討する必要があると考えている。

・（谷口委員長）地方では多くの学生が電車で通学し駅を利用している特性を活用して若者によるにぎわいづくりに繋げている事例もあるので参考にしてほしい。

<異議なし>

(4) 第4号議案「東海市における緑あふれる快適都市づくり（防災・安全）について」（中間評価）【資料④】

- ・花と緑の推進課から説明し、下記の質疑応答を行ったもの。
- ・（秋葉委員）緑陽公園では、災害時に地域防災拠点として活用できるオープンスペースを整備しているとあるが、市の南部にある加木屋南公園はどのような活用を考えているのか。

⇒（事務局）加木屋南公園は遊具がない芝生広場等のオープンスペースを災害時に仮設住宅の設置や一時避難場所、災害廃棄物のがれき置き場としての活用を考えている。

⇒（秋葉委員）公園の周回路の整備やバリアフリー化の整備を進めていただいているが、市南部に住んでいる人からは、他の地域に比べて公園の整備が進んでいないという声を聞くため、必要な整備は引き続き進めてほしい。

- ・（江川委員）老朽化施設の改修だけでなく、樹木なども維持管理も実施してほしい。

⇒（事務局）樹木の維持管理は、大池公園でさくら再生事業を毎年実施しており、大池公園が完了した後、市内の他の公園へ拡大していく。

- ・（久野委員）公園施設長寿命化計画により市内にある公園の施設が一連で整理され、計画的に改修が実施されていると思うが、指標4の「公園施設長寿命化計画に基づき必要な改修・更新を実施した公園施設の割合」の実績値が中間目標値を上回っているのはなぜか。決まっているものに対して実施するのであれば、改修箇所を見込んで進められるのではないか。

⇒（事務局）公園施設長寿命化計画により年度ごとに改修する施設を決めているが、遊具等は多くの人を利用することで壊れる場合がある。そのため、定期的に点検を実施し、改修が必要と判断した際は、その時期が早まる場合があることから予定より整備箇所が増えた結果となっている。施設が多く利用されることは良いことであるが、その分老朽化が早まることもある。

⇒（久野委員）それであれば目標値をもう少し高く設定すべきではないのか。

⇒（事務局）目標の設定は計画に基づいているため、計画よりも老朽化が早まる可能性の考慮は難しいと考える。

- ・（谷口委員長）外来生物の対策は実施しているか。

⇒（事務局）外来生物に関しては生活環境課が調査や駆除を実施している。公園内のマツや桜等の樹木は施設管理協会に委託し管理している。

<異議なし>